



環境支援士

発行日 2022年3月31日

発行責任者: 滋賀大学「環境学習支援士」会

理事長 橋田卓也

第28号 編集責任者 佐瀬章男

URL: <http://www7b.biglobe.ne.jp/~shienshikai425/>

Email: shienshikai@yahoo.co.jp

第12回滋賀大学環境シンポジウム

前田雅彦

テーマ:「温暖化からびわ湖の生態系を考える」

日時:2021年12月4日(土)午後1:00~午後4:15

会場:滋賀大学 大津サテライトプラザ(JR 大津駅前 日本生命大津ビル 4階)

1. 基調講演

「びわ湖の本来あるべき姿とは」

三田村 緒佐武氏(滋賀県立大学
名誉教授)・当会理事

2. 話題提供

「気候変動がびわ湖に及ぼす影響と、
地域における自然再生への取り組み」

佐藤 祐一氏(琵琶湖環境科学研究センター専門研究員)

今回はコロナの関係もあって、会場での蜜を避けるために、初めてWEB参加を募集し、会場での参加31名、

WEB参加22名の合計53名が参加された。WEB中継は初めての経験であったので、事前にWEBテストを実施して確認はしたが、上手くできるか不安があった。当日はおおむね上手くいったので安堵しました。パワーポイントの内容も、パソコンで見られるので、会場で見るとよりよくわかると、おおむね好評であった。次回からも参加者を増やすためにもWEB参加を続けるべきと考える。ただ、WEB参加者の質問をどのようにして受けるかを工夫する必要がある。

参加者の感想の結果からは 三田村先生の講演では「びわ湖はどう考えるか?」「びわ湖が言っていることが人間に聞こえているか?」「環境保全と人間の豊かさの折り合い」「支配・共存・共生」等のキーワードをいただいた。佐藤先生の講演では

「サイエンス」と実践によるお話で、びわ湖の問題が、多くの要素に影響され、解明が非常に困難であることをよく理解できた。河川のバープ工法はとても魅力的で、アユなどの河川での産卵の復活、魚道の回復によるビワマス遡上と産卵・稚魚の誕生等、身近な河川への対応をしたいと思います。



虎姫コミュニティセンターへの出前講座

三好寿津代

11月27日(土)虎姫コミュニティセンターからの依頼を受け「子どもチャレンジ教室」に講師として出向きました。9月末ごろから事務局の方と打ち合わせをして「クリスマスリース」を提案しました。対象が小学1年生から中学1年生の子供たちなので、職員さんから今流行りの100均のビーズやモールを使い、あまり難しくない「クリスマスリース」をとの要望がありました。



しかし環境問題を子供たちの意識の中に残すために活動をしている支援士会の出前講座なので、プラスチックなどの人工素材を使わず、出来るだけ自然素材だけを使っての「クリスマスリース」作りをお願いしました。職員の方も理解くださり広報誌で「自然素材でクリスマスリース🎄」として参加者の募集をして下さいました。

10月から自宅花壇にある草花をドライフラワーにし、野山に木の枝や木の実を拾いに出かけました。定期的にたくさんの木の実や木の枝を準備することができました。



当日は参加募集人数を上回る21名の子供たちが参加してくれました。

低学年の子供たちには、私が事前に編んで持参したリース台に飾り付けをしてもらいました。高学年の子供たちには、リース台を編むのに適した剪定枝やサツマイモの蔓を持参して自分でリース台を編んでから、木の実やモミの木の枝などで飾り付けをしてもらいました。

女の子が多いのかな？と思っていましたが男の子もたくさん参加してくれて「お母さんにプレゼントとする！」と言って、とても素敵に飾り付けをしてくれました。



作品の製作と何か一つ知識をとって、「リース」の持つ意味とクリスマスに「モミの木」や「ヒイラギ」が使われる理由を説明しました。クリスマスケーキに必ず飾り付けされている、「ヒイラギ」を模った先に赤い実が付いた緑の葉っぱが「魔除け」と知り、子供たちは「痛いなあ〜！」と言いながらも全員がリースに「ヒイラギ」を飾り付けてくれました。

少しゆがんだリースや地味に思われるリースも、ヒイラギの枝を飾りつけて、その先端に南天の赤い実をつけ、赤や金、銀色のリボンを結ぶと、どの子の作品もとても可愛い個性あふれる、素敵な「クリスマスリース🎄」になりました。

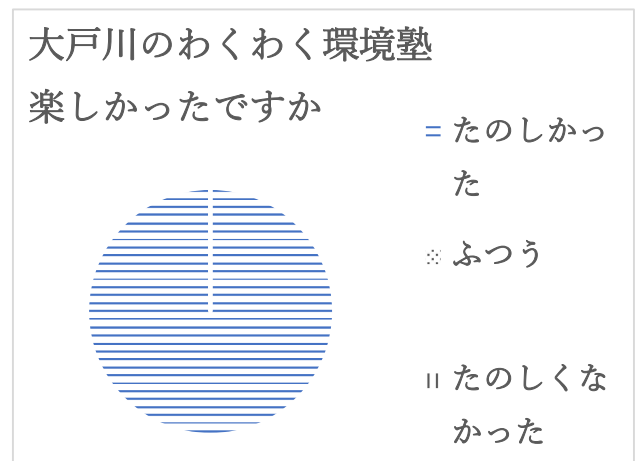
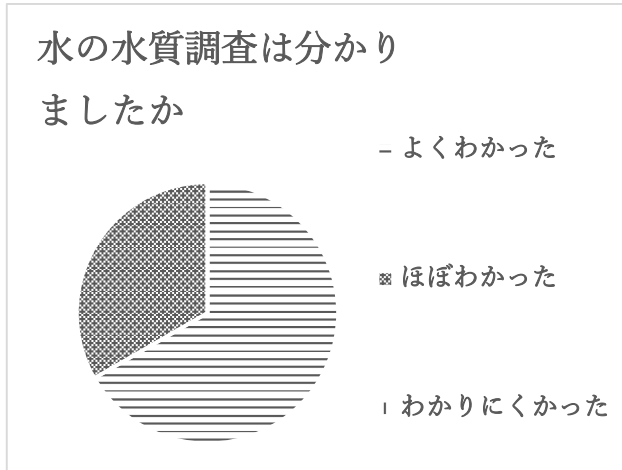
お店でリース台を買わなくても、家の庭や野山にある木の枝でリース台が作れることや、松ボックリ、どんぐりなど、自然の中にある素材で素敵にリースが仕上げられることを子供たちに伝えることが出来ました。

虎姫は自然がまだまだたくさん残り子供たちの遊び場もたくさんありました。例年より早い伊吹山の雪景色もとてもきれいでした。

§ 自然環境塾-川の学校-大戸川(石居橋付近) §

佐瀬章男

27号の機関紙でお知らせしたように、この企画は新型コロナウイルスの感染防止で当初計画した日程と実施時期が大幅にずれた影響で、最終的には参加者23名と会員8名で10月30日土曜日午前中に実施しました。夏休み中に実施できできなかったことで参加者が減少し、少し計画より寂しい結果となりましたが、何とか実施できたことが大変良かったと思います。当日の写真とアンケート結果、参加者児童



と保護者のアンケートと感想文の一部を以下に掲載します。またセブンイレブン記念財団に提出する活動報告書についても担当し、まとめるのに大変苦心しました。しかしながら助成金で簡易テントや観察用

以下児童感想	
1	いっぱいつれて楽しかった。初めてだけどもっちゃ楽しかった。またやりたいです。
2	はじめて見た魚や生物がいたのしかった。タモあみで大きな魚をつかまえてたのしかった。
3	ちっちゃい生きものがとれてよかった。
4	たくさん生物をとれて楽しかったし、うれしかった。
5	あみで生き物をとった時に、魚やエビをつかまえたので、たのしかった。
6	ちょっとさむかった。
7	またやりたい。
8	生き物とふれあえてたのしかった。
9	いろいろなさかなや、やごなどがしれてよかった。
10	川がつめたかったけど、なれてきたらたくさん水生生物がとれてたのしかったです。
11	三田川ではカニがいっぱい取れて、エビが少なかったけど、ここではエビが多くてカニが少なかった。
12	魚はとれなかったけど、エビとかがいっぱいとれたから、おもしろかった。
13	たのしかった。
14	楽しかった。いろいろな生きものがとれたのでまたやりたいです。(ヘビトンボがとれてうれしかった。)
15	水中の虫がおもしろい形で、こんなにきれいなんだな、大切にしないと、と思いました。

水槽その他の備品を購入できたことで、今後の自然観察学習に活用できるものを充足できました。

実施時期や会員の高齢化等いろいろ問題点はありますが、今後の活動に生かせる経験を積んだことが何よりの財産だと思います。

次年度以降の計画は詳細は未定ですが、たくさんの方の会員がこの種の企画に多数参加していただけるよう、紙面をかりてお願い申し上げます。

右は保護者の感想から抜粋

11	良い場所を選定して下さっているの、生物も多くよかったです。本当にもう少し暑い季節に実現できていたら良かったですね。
12	家族だけでは出来ない水質調査や、一見何もいらないように思った川の中にも、たくさんの虫がいて、おどろきました。とても楽しいよい経験になりました。
13	
14	ヘビトンボ、ミズスマシ、コオニヤンマのヤゴ、など人生で初めての虫ばかりで興奮しました。水質調査なども20年ぶりで楽しかったです。ありがとうございました。
15	大変有意義な時間をありがとうございました。ヘビトンボにびっくりしました。また次あれば参加したいです。



開会式で橋田理事長の挨拶



大戸川で生物採集の活動



左は助成金で購入した簡易テントの活用



天神川・大戸川自然観察学習(田上小学校出前講座)

佐瀬章男

今年もこの出前講座では日程調整で大変苦労しました。当初予定していた7月2日は雨天で中止となり、その後一度計画した9月の日程も雨で流れ、最終的には昨年と同じように11月に入り17日(水)午前中に実施しました。当日は天候もまずまずで5年生2クラスの児童は最初に学校の近くの天神川で学習をし、その後全員で大戸川石居橋まで1.5キロ歩き、河原と流れの中で水質と生物の調査を行いました。3時間目までに川での学習をすべて終了し学校に帰って、4時間目は大教室でパワーポイントによる天神川と大戸川の地理的環境や、生物の映像見て学習しました。参加した5年生児童は64名で、当会会員は橋田、前田、成子、階元、佐瀬の5名で、分担して現地学習を担当しました。天神川の流量はまだまだ以前のような流れはなく、採集できた生物も少なかったですが、大戸川では魚類やエビ類やカゲロウやヤゴ類などが観察できました。

朝8時過ぎに現地の大戸川に3名が集合して準備、(天



神川は橋田、前田両会員が担当して9時前から調査学習)10時過ぎには会員5名が合同で大戸川の水質と生物調査を実施しました。4時間目は大教室で講義と質疑応答、その後大学に行って用具類の片づけ、最後に県庁の大津土木事務所に行って、河川敷の公園用地に入る「カギ」の返還をしてやっと帰宅できました。

この出前講座はお天気と学校の希望日程、そして当会会員の参加者確保で毎年苦勞しますが、今後継続してこの出前講座を担当するためには、会員誰もが指導できる使いやすいマニュアルの作成が必要だと痛感しました。

「うみのこ」出前講座

橋田卓也

昨年に続きコロナ禍で、学校の授業も厳しい中「うみのこ」への出前講座も減少すると懸念していました。今年は、実績として昨年比110%UP(17校・18回)実施しました。その中で、今年の特徴的な講座は、彦根市立稲枝東小学校、近江八幡市立金田小学校の乗船後の出前講座です。両校とも学校より児童の課題に基づいた具体的に要望が出されました。

1. 稲枝東小学校 2クラス 66名 (10月15日(金)3・4時限目)

講座(課題別 45分) ワークショップ(未来に向かってどう行動するか)45分

出前講座①グループは、「びわ湖にある島」「びわ湖の水質(どのように回復)」「環境保全活動」について。

②グループは、「プランクトン」「びわ湖の魚(固有種・外来種)」「びわ湖に生息する生物」について。

ワークショップは、本来のクラスに戻って実施しました。子どもたちの感想は、事前学習・フローティングスクールで分らなかったことが知れた。更に、自分の課題について調べることが分かった、もっと詳しく考えたいと思った等、課題について理解が深まりました。先生方は課題に対して焦点を当てた内容、フローティング後で見えてきたものを再度確かめられたと語っています。後日、学校から子どもたちの質問が届き調べて返事しました。(担当:佐瀬、橋田)



2. 金田小学校 4クラス 145名 (12月2日(木)3・4時限目)

出前講座 45分 ワークショップ 45分

出前講座は、「琵琶湖の水質の回復、びわ湖の魚(在来魚と外来種)」について。

ワークショップは「びわ湖のいきものがたり」で映像から班でびわ湖のいきものを1つ選んで主人公の物語と夢を語ります。物語は①選んだ生き物名、②私の生まれた場所③私のものがたり④私の夢が書かれています。子どもたちの物語から、生き物の気持ちが分かり生き物に



とってつらいことを、減らすために具体的に保全に努力する事が描かれています。一人一人が、びわ湖の生き物の立場になって考えることが自ら行動への出発点だと思いました。

(担当:佐瀬、前田、下山、橋田)

2022 年度第一期指導計画作成会議

下山健二

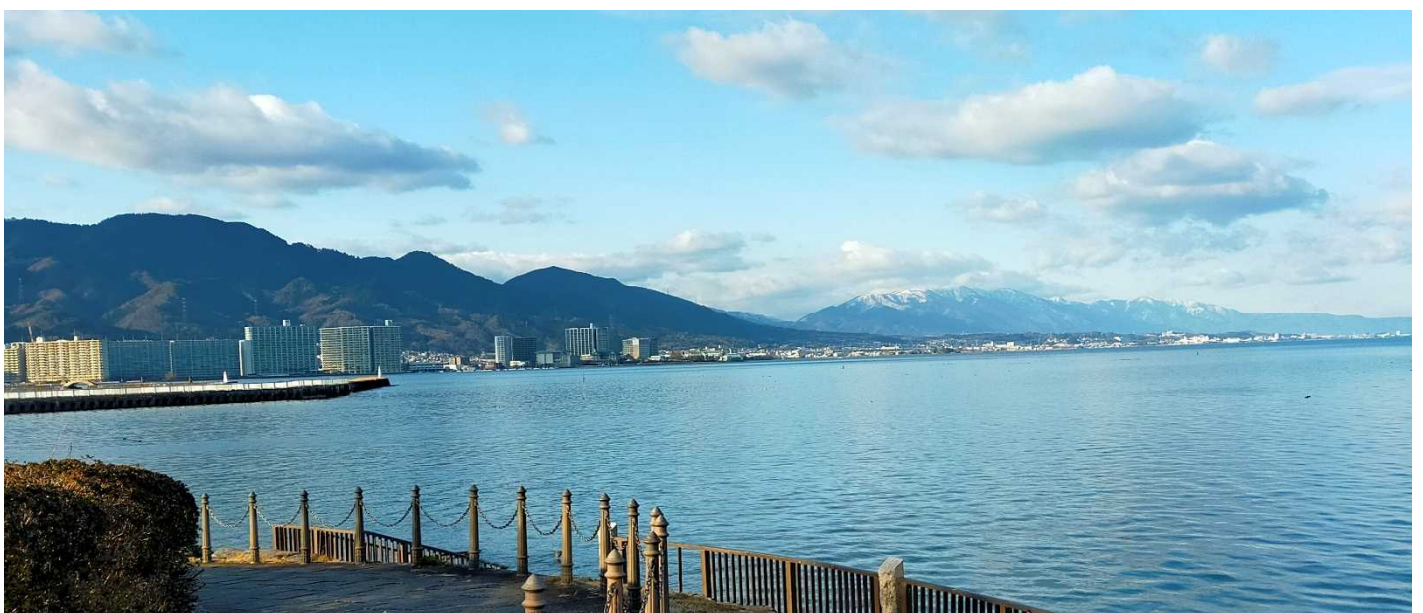
毎年フローティングスクールで開催される、「うみのこ」学習の 2022 年度向け 1 回目の会議です。

2022 年 2 月 10 日(木)に大津港ターミナルビル 1 階集会室にて、午前の部(10:00~11:30)と午後の部(14:00~15:30)に分かれて開催されました。対象校は合計 22 校(14+8)で、第1期に航海する先生が出席されました。今年もコロナ禍第6波の最中で3密を避けるために絞って行われ、今後人数を絞りながら回数を増やして会議を開催するようです。今回は午前の部に橋田、前田の会員が、午後の部には

佐瀬、下山の会員が出席しました。主催者側からは、所長の挨拶に引き続き、担当者が教育理念や業務計画、指導計画作成要領、提出書類などを説明し、又2日日程を中心に説明されました。しかし 2022 年度もコロナの状況を見て 1 日日程になる可能性があります。説明後、先生方は同時乗船校との打ち合わせに入り、熱心に進め方を FS の指導者と調整をされていました。その中で支援士会として、出前講座として、乗船前、乗船後について、支援を行っている旨を先生方にご説明し依頼書の提出をお願いいたしました。



コロナ禍で事務局も先生方もご苦勞があり、感染対策など十分に対応が求められます。



2 月 10 日当日の湖岸風景(撮影-佐瀬)

琵琶湖博物館主催のWEBセミナーに参加した。

「琵琶湖の三大問題－深呼吸・水草・外来種は今どうなっている？」

1月から3月に3回開催されましたが、全てWEBセミナーであり自宅で気楽に参加できた。

【第1回 どうなる？琵琶湖の「深呼吸」】

日時:2022年1月22日(土) 13時30分～15時30分

講演内容: 戸田孝(琵琶湖博物館専門学芸員) そもそも『深呼吸』とは何か～物理的なメカニズム
石川俊之氏(滋賀大学教育学部教授)

「『深呼吸』が不完全だと何が起こるか～野外観測の結果から」

感想

石川先生の話は琵琶湖だけでなく外国の湖の深呼吸の現象について説明があり面白かった。

今後、温暖化による全層循環の影響が、琵琶湖の生態系にも大きな影響を及ぼすことがわかった。

【第2回 琵琶湖の水草は増えすぎなのか？】

日時:2022年2月26日(土) 13時30分～15時30分

講演内容: 芳賀裕樹(琵琶湖博物館総括学芸員) 「琵琶湖における水草の繁茂と現状」
佐藤祐一氏(琵琶湖環境科学研究センター専門研究員)

「水草からみた琵琶湖の長期変遷～シミュレーションモデルを用いた解析から」

感想

水位、透明度、水温や太陽光の影響が水草繁茂に影響が大きいというデータが示された。

昔は水草も有効利用されていたが、現在よりは繁茂の量は少なかったようだ。

【第3回 解決できるか？外来種問題】

日時:2022年3月26日(土) 13時30分～15時30分

講演内容: 五箇公一氏(国立環境研究所生物多様性領域生態リスク評価・対策研究室室長)

「なぜ外来生物は管理が必要なのか??地球環境問題の視座から考える」

中井克樹(琵琶湖博物館専門学芸員)

「琵琶湖の外来種問題を振り返って:人が引き起こした自然の攪乱、社会の混乱」

感想

外来種の問題はその根底には人が関与しており、自然界のバランスを崩したことにより、それまで安定していた生態系に混乱を生じているものであり、根本的な解決はなかなか困難なようだ。

2022年度下期「うみのこ」出前講座 実績

稲枝東小学校の10/15講座と金田小学校の12/2講座は5ページに詳細の記事があります。

新型コロナウイルス感染防止の環境化、出前講座を担当下さった講座担当会員と、出前講座の申請を下さった各小学校に御礼申し上げます。

NO	学校名と実施日	学習種とクラス数	講座担当会員
1	坂田小学校 10/1	事前学習 3クラス	佐瀬、下山、橋田
2	治田小学校 10/6	事前学習 4クラス	佐瀬、前田、下山、橋田
3	油日小学校 10/12	事前学習 1クラス	佐瀬、
4	稲枝東小学校 10/15	事後学習(新)2クラス	橋田、佐瀬 記事5ページ参照

5	旭森小学校 10/26	事後学習 5 クラス	佐瀬、吉川、前田、下山、橋田
6	三上小学校 11/2	事前学習 1 クラス	橋田
7	志賀小学校 11/4	事前学習 4 クラス	橋田、佐瀬、前田、下山
8	鳥居本小学校 11/5	事前学習 1 クラス	下山
9	小谷小学校 11/5	事前学習 1 クラス	佐瀬
10	田上小学校 11/17	天神川・大戸川 水質-生物調査 2 クラス	佐瀬、前田、成子、階元、橋田
11	膳所小学校 11/24	事前学習 4 クラス	佐瀬、前田、下山、橋田
12	金田小学校 12/2	事後学習 4 クラス 新 PPT 講座・新 WS びわ湖生き物がたり	佐瀬、前田、下山、橋田 記事 5 ページ参照
13	近江兄弟社小学校 12/16	事前学習 1 クラス	橋本
14	石部南小学校 1/19	事前学習 2 クラス	橋田、佐瀬

2022 年度の総会・・・通常開催です。たくさんの会員のご参加をお待ちしています。
(別紙の案内を参照の上、返信ハガキを 4 月 10 日までに投函下さい)

2022 年度の総会

日時:2022 年 4 月 16 日(土)13 時～ 総会 14 時～研究発表会

会場:滋賀大学大津サテライトプラザ(JR 大津駅前日生ビル 4 階)

出席の可否を同封ハガキに記載の上返送下さい。(当日参加者は会費を受付ます)

編集後記

オミクロン株による新型コロナウイルスの感染者は、新年に入っても収束の兆しが見えず、第 6 波は感染者数ではこれ迄で最大の山でした。又世界でも感染者数は 5 億人に迫り、一体何時になったら感染が撲滅できるのか、まったく予測が出来ません。もしかしたらこのままの状態が日常になってしまうか、と不安になってきています。

今年度はセブンイレブン記念財団の助成金で天神川・大戸川の自然教室を予定し、びわ湖淀川こども水質保全活動助成金で金勝川の自然教室を予定しました。金勝川の自然教室は何とか予定通り実施しましたが、天神川・大戸川の自然教室は記事でも紹介しましたが、新型コロナウイルス感染防止の影響で日程も開催場所も変更を余儀なくされて、参加者も大幅に減少しました。

2022 年度は何とか予定通りの開催が出来る事を祈らずにはられません。

理事会は WEB 会議が運営の主体となり、会員間の意見調整が充分には出来ませんでした。

※H/P アドレスが再度変わりました。URL: <http://www7b.biglobe.ne.jp/~shienshikai425/>
滋賀大学「環境学習支援士」会 〒520-0862 大津市平津 2-5-1(滋賀大学教育学部内)

TEL/FAX:077-537-7821